

『前途多難で、母をはじめとした様々な人々に助けられた自分の人生』



前途多難・トラブルだらけな小学生時代

生まれた頃から発達障害を持っており、入学してからも一年生・二年生では、精神的な不安により熱性けいれんや周期性嘔吐を発症してしまった。登下校や給食の時間では母が常に付き添っていた。また、このような事態に対処するため母は、担任やカウンセラーの先生に自分のことが書かれた書類の作成をしたり、別の小学校の通級指導教室に連れていってくれたりした。そのかいもあってか、3年生・4年生では小学校での生活になれ、精神的な不安もなくなり、一人で学校生活を送れるようになった。そして、5・6年生にて私立中学校への受験をはじめた。塾も夜遅くまで行くようになり、精神的・体力的な問題が再び発生したが、家族や先生たちのサポートのおかげで第一志望の関東学院中学校に合格した。

再び前途多難でトラブルだらけな中学校時代

関東学院中学校に入学して中学一年生の時、難しくなった教科や新しい友人関係、自宅から通うのに長い時間がかかるといった新しい環境のため、精神的な不安になった。そのため、小学校と同様に各担任に自分についての書類を提出したり、カウンセラーの先生の世話になったりした。また昼食が学食になり、毎日違うメニューを食べられるため、精神的な支えになり学校生活を送れるようになった。そのまま中学1年生、中学2年生を過ぎていき、中学3年生のころにまた精神的な不安に襲われた。成績が良くなければ高校に進学することが出来ない事が原因で、数学が苦手な自分にとっては辛いことであった。が、父親が毎日数学の勉強に付き合ってくれたため、無事に高校に進学することが出来た。

最終的に大学受験に合格した高校時代

高校に進学すると同時に大学受験への準備が始まった。勉強が難しくなり、疲れにより帰ったら直ぐにベッドで寝ることが多くなり、精神的・体力的にきつい状態になった。高校2年生になると初めて海外での修学旅行に行くことになり、更に具合が悪くなったが、カウンセラーや担任、両親のサポートで無事終了した。そして、高校3年生にて明治学院大学の推薦を獲得し、見事社会学部社会学科に合格した。

ティーンズの後輩へ一言

人生においていろんな壁などにぶつかることがあり、様々な事で苦勞することがあるが、誰かに相談することや助けてもらうことを大切にしていけばいい。

そうすれば自分で壁を越えることができるようになるし、出来ないことを出来るようにしてくれるからだ。この事を大事にしてこれから頑張ってもらいたい。

18年間のモチベーショングラフ

